

	の場合、(WHODAS 2.0 に定義する通り) 行動をしていないのは健康状態が原因かどうか尋ねること。回答者が健康状態が原因と答えた場合、「極度またはできない」の「5」と評価すること。反対に健康によるものではないと報告する場合、「N/A」と評価し、コーディングする。
D4.5	性的行為をする
	回答者がこの質問に答える際、回答者にとっての性的行為について考えてもらうこと。詳細を求められた場合、この質問は以下を示すと説明すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・性交 ・抱擁 ・キス ・愛撫 ・他の親密な行為、又は性的行為

p.52

領域 5：日常の生活

この領域では、日常生活上の活動を行う上での困難について質問をする。これらの活動とは、日常的に人々が行う活動を指している。つまり、家庭、仕事および学校での活動を含む。フラッシュカード#1と#2を見えるようにすること。

自己記入バージョンは質問別番号が太字になっており、面接者記入バージョンは番号が括弧でくくられている。

	過去 30 日間で健康状態が原因でどれだけ困難がありましたか
D5.1	家で家事をしている
	<p>ここでの全般的な質問の意図は、家事を継続をしたり、家族や親しい間柄の人々の面倒を見たりするときに回答者が遭遇した困難についての評価を聞き出すことにある。</p> <p>回答者には以下に挙げる全ての家事、または家族のニーズを考えるように求めること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体的ニーズ ・情緒的ニーズ ・財政的ニーズ ・心理的ニーズ <p>中には、男性が家事に対し責任を負っていないという文化もあるかもしれないが、この場合は家事というものは家事という定義に以下を含むことを説明すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家計の管理

	<ul style="list-style-type: none"> ・車や家の修理 ・家庭外での世話 ・子供の学校への送迎 ・家事の手伝い ・子供のしつけ <p>他にも、必要に応じて回答者の文化圏で男性が行っている家事の例を見つけ追加していくこと。</p> <p>ここでの「家事」の定義は広範なものとなっている。安定した住まいのない回答者がいる場合でも、その人たちの所持品の整理や良い状態に保存するといった活動がある。ここでの質問はそういった活動も指す。</p>
D5.2	最も行うべき家庭の仕事をうまく果たす
D5.3	すべき全ての家事を済ませる
	<p>回答者にどれだけうまく家事を済ませたか、必要な家事を済ませることができるかの評価を回答者自らの査定に基づき評価させること。回答者は健康状態が原因とされる困難についてのみ報告するので、必要とあればこれを回答者に知らせる。よって十分な時間が無くて家事を済ませることができなかったといったような困難はこの質問の対象外となる。(この理由が健康状態に何らかの形で関係するのであればそれを報告すること。)</p>
D5.4	必要に応じてできるだけ早く家事を済ませる
	この質問は、家事やその責任に関して、回答者が同居している人々の期待やニーズに適時に答えられたかどうかについてである。
D5.5	日々、仕事／学校で活動を行う
	<p>ここでの全般的な質問の意図は、日々の仕事、及び学校生活を送る上で回答者が遭遇した困難についての評価を聞き出すことにある。よってここで聞き出す問題は、仕事場やその他の関係する活動を行う上で時間通りに出勤／登校できているか、指示の受け答えはどうか、他の人々の管理はできているか、立案と組織はできているか、期待に応えることができるかということを含む。</p>
D5.6	最も大切な仕事／学校の課題をしっかりと行う
	<p>仕事または学校の業務を「しっかりと」行うというのは、それらの業務を、監督者や先生の期待通りに完了できるか。または回答者自身の基準、仕事や学校で指定されているパフォーマンスの基準に従ったかたちで業務を完了できているかを示す。</p>
D5.7	仕事／学校で、必要のある全ての仕事を全て済ませる
D5.8	必要に応じて、行うべきことをできるだけ早く済ます
	これらの質問は、期待される仕事量をこなし、締め切りの期限を守るといったことを指す。

領域 6 : 社会参加

領域 6 は、これまでの 5 つの領域で行った一連の質問から方向転換し、回答者は周りの人々や、回答者の関わる世界が回答者の社会参加をどれだけ困難にしているかを考慮するよう求められる。ここでは回答者は、自分たちの制限されている活動について報告するのではなく、回答者の関わる人々、法律、世界が原因となってもたらされる制約について報告をする。回答者の発想の転換をし、質問の内容を理解させるためにも、この領域の導入部で下線部が引かれている箇所の喚起を行うこと。これらの質問の焦点は、回答者自身の困難さによるのではなく、回答者の住む社会で遭遇する問題にあるということを回答者が理解する必要がある。また、この領域では、健康状態による影響に関する質問も行う。

この領域の導入部分では特に、この面接が過去 30 日に焦点を当てていることを回答者に喚起している。しかしこの特にこの領域では、そのような時間枠を制限することはあまり適さないのも事実である。従って、回答者にはなるべく 30 日の基準期間に的を絞り続けるように促すことが重要である。

	過去 30 日間で
D6.1	他の人と同じ方法で地域の活動に参加するのに、どれだけ問題がありましたか (例えば、祝祭行事、宗教等)
	<p>必要であれば、地域社会活動の例を挙げてこの質問の説明を行うこと。地域社会活動の例には、町内、近所、地域社会での町内会に出席、見本市へ参加、またはレジャーやスポーツ活動などがある。この質問で尋ねるべき関連問題は、回答者がそうした活動に参加できているかどうか、また、回答者が参加する上で規制があるかどうかについてである。</p> <p>回答者が「他の人と同じ方法で」という表現に混乱している様子であれば、自らの判断基準を用いるよう言うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の一般的な人々が地域社会活動にどれだけ参加できているかを評価する ・その評価をもとに地域社会の活動に参加する上での個人レベルでの困難さについて考慮する。
D6.2	あなたの身の回りに生じた障害、妨げによって、どれだけ苦労しましたか
	<p>この質問の意図は、回答者が他の人々ができるような願望や計画を実現する上でどれほど妨げがあったか判定することである。ここでのコンセプトは、回答者の周りの世界や人々がもたらす外的障害という観点から回答者が直面しているものである。ここでの障害を以下に挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体的一例えば、教会に入るためのスロープがない ・社会的一例えば、障害者を差別する法律、および障害の原因となる他人の否定的な態度

D6.3	他人の態度と行為によって、あなたの尊厳が傷つけられたことが、どれだけありましたか
	回答者に、自分の人格、自分の行動、および生き方に対して尊厳や誇りを持つ際に抱える問題を考えてもらう。
D6.4	健康状態、またはその改善のために、どれだけ時間を費やしましたか
	この質問は、回答者が健康状態のために費やした過去 30 日間の割合を総合的評価、またはその断片を見ていく。この割合とは以下に挙げる活動に費やした時間である。 <ul style="list-style-type: none"> ・治療センターに通う。 ・健康に関連する財政的問題の管理。例えば、請求書の支払い、保険の払戻し、給付金の受給など。 ・健康に関する情報の入手と、その情報を他の人にも教育して伝える。
D6.5	健康上の問題が及ぼすあなたの感情への影響はどれくらいでしたか
	この質問は、回答者が健康状態により感じた感情的影響の程度に関するものである。ここでいう感情とは、怒り、悲しみ、後悔、感謝の気持ち、ありがたみ等、他の肯定的・否定的感情もこれに含まれる。
D6.6	健康上の問題で、あなたやあなたの家族にどのくらい経済的損失をもたらしましたか
	ここでの家族の定義とは親戚を含む広範囲なものとする。また、回答者に（血縁的）関係は無いが家族のような間柄とみなしている人々、つまり回答者と健康状態関連の財政面を共有しているような人々もこの定義に含まれる。この質問の焦点は、健康状態のためのニーズを満たすため、個人的貯金、または現在の収入の損失に置かれている。回答者が大きな財政的損失をしたことがあるが家族はそうではない、またはその逆に回答者は経済的損失をしたことは無いが家族はあるといった場合、回答者は（回答者、または家族の）どちらの経済的損失でも経済的損失があったとして回答すること。
D6.7	あなたの健康上の問題によって、家族がどのくらい問題を抱えましたか
	この質問の焦点は、回答者の健康状態と回答者が住む世界が交流する中で生じる問題である。この質問では家族が抱える問題についての情報を聞き出す。ここでの問題というのは財政的問題、感情的問題、身体的問題などである。この質問で使用されている「家族」の用語に関しては D6.6 で定義している。
D6.8	自分で、リラックスや楽しみをしようとした時に、どれだけ問題がありましたか
	ここで回答者に質問する内容は、レジャーへの興味である。このレジャーとは現在チャレンジしているもの、またはチャレンジしたいと思っているが自らの健康状態や社会による規制が原因でチャレンジできないものである。

	<p>以下の回答者を例として挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小説を読みたいが、地元の図書館が大きな活字で印刷した本を備えていないため制限されている人 ・映画を鑑賞したいが聴覚障害者用の字幕が付いている映画がほとんど無いため鑑賞できない人 <p>回答者から得た問題の全体的評価を行うこと。</p>
--	--

p.55

7.3 質問 F1-F5 : フェースシート

質問 F1-F7 は、各回答者に関する人口統計的情報を集めることを意図しており、面接者は面接開始前にこれを完成させること。

F1	回答者、または対象者の番号を記録
F2	面接者番号を記録
F3	評価時刻を記録 (1時、2時など)
F4	面接日付を、日/月/年のフォーマットに従い記録。空欄の箇所は 0 と記すこと。例えば、2009年5月1日であれば、01/05/09 とする
F5	<p>面接時の回答者の生活状況を選ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 独立して暮らしている (例、一人暮らし、家族と同居、地域で友人と暮らしている。) ・2 援助を得て生活 (地域で暮らしているが、買い物、入浴、食事の準備などの日常の活動で定期的な援助、専門的な援助を少なくとも受けている。) ・3 入院中 (即ち、老人ホーム、病院、リハビリ施設のような 24 時間体制の環境で暮らしている。)

7.4 質問 H1-H3 : 困難により生じる支障

質問 H1-H3 では、回答者が直面した様々な障害が、回答者の生活にどれほど支障をきたしているかを評価する。

H1	<p>全体として、この 30 日間に何日くらいこうした困難がありましたか</p> <p>この質問は面接時に評価した全ての困難についての全体的評価である。</p>
H2	<p>この 30 日間で、健康上の問題により普段の生活や仕事が全くこなせなかったのは何日間ですか</p> <p>回答者がこの質問に回答する際、回答者自身の「全くこなせなかった」基準を用いるよう促すこと。</p>
H3	<p>この 30 日間で健康上の問題により、普段の生活・仕事を中断したり減らしたりしたのは何日間ですか。全くこなせなかった日には除いて下さい</p>

	単に回答者が全く活動を行えなかった日数を計算するだけでなく、いかなるものであれ普段の活動で減らしたものを考えてもらうこと。
--	---

p.56

7.5 質問 S1-S12 : ショートフォームの質問

「S」の字で始まる質問は、WHODAS 2.0 の 12 項目と 12+24 項目の面接者記入バージョンのみでしかない。

- ・ 12 項目バージョンでは、すべての S 項目 (S1-S12) を質問する。
- ・ 12+24 項目バージョンでは S1-S5 を質問するが、S6-S12 は回答者が最初の S1-S5 でいくつかの困難を示した場合のみ質問される。

	過去 30 日間で、次のことにどれだけ困難がありましたか
S1	30 分など長時間立っている
S2	家で家事をしている
	<p>ここでの全般的な質問の意図は、家事を継続をしたり、家族や親しい間柄の人々の面倒を見たりするときに回答者が遭遇した困難についての評価を聞きだすことにある。</p> <p>回答者には以下に挙げる全ての家事、または家族のニーズを考えるように求めること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体的ニーズ ・ 情緒的ニーズ ・ 財政的ニーズ ・ 心理的ニーズ <p>中には、男性が家事に対し責任を負っていないという文化もあるかもしれないが、この場合は家事というものは家事という定義に以下を含むことを説明すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家計の管理 ・ 車や家の修理 ・ 家庭外での世話 ・ 子供の学校への送迎 ・ 家事の手伝い ・ 子供のしつけ <p>他にも、必要に応じて回答者の文化圏で男性が行っている家事の例を見つけ追加していくこと。</p> <p>ここでの「家事」の定義は広範なものとなっている。安定した住まいのない回答者がいる場合でも、その人たちの所持品の整理や良い状態に保存するといった活動がある。ここでの質問はそういった活動も指す。</p>

S3	新しく何かを学ぶ。例えば、新しい場所への行き方を覚える
	<p>この質問では、新しい場所への行き方を覚えるということが例として挙げられているが、回答者に具体的な説明を求められた場合、あるいは回答者が明らかに例に挙げた道順を覚えることだけ思い出している場合は、それだけでなくここ1ヶ月で新しく学んだ他の状況を思い浮かべるように促すこと。例を以下に挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事での課題（例えば新しい手順または職務） ・学校（例えば新しい課目） ・家庭（例えば新しい家の修繕の仕事を学ぶ） ・レジャー（たとえば新しいゲームや工芸を学ぶ） <p>回答者を評価している際、回答者に、新しい情報を習得するのにどれほど容易にできたか、習得する上でどれほど手助けや反復をする必要があったか、学習したことをしっかりと習得しているかについて考えてもらうよう促すこと。</p>
S4	他の人と同じ方法で地域の活動に参加するのに、どれだけ問題がありましたか（例えば、祝祭行事、宗教等）
	<p>必要であれば、地域社会活動の例を挙げてこの質問の説明を行うこと。地域社会活動の例には、町内、近所、地域社会での町内会に出席、見本市へ参加、またはレジャーやスポーツ活動などがある。この質問で尋ねるべき関連問題は、回答者がそうした活動に参加できているかどうか、また、回答者が参加する上で規制があるかどうかについてである。</p> <p>回答者が「他の人と同じ方法で」という表現に混乱している様子であれば、自らの判断基準でを用いるよう言うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の一般的な人々が地域社会活動にどれだけ参加できているかを評価する ・その評価をもとに地域社会の活動に参加する上での個人レベルでの困難さについて考慮する。
S5	健康上の問題が及ぼすあなたの感情への影響はどれくらいでしたか
	<p>この質問は、回答者が健康状態により感じた感情的影響の程度に関するものである。ここでいう感情とは、怒り、悲しみ、後悔、感謝の気持ち、ありがとうみ等、他の肯定的・否定的感情もこれに含まれる。</p>
S6	何かをするのに10分間集中する
	<p>この質問の意図は、回答者が短時間で集中する際にどれだけ困難を伴うかを判定することにある。ここでは、10分を短時間と定めている。通常であればこの項目に関して理解で苦しむことはない。しかし、状況の具体的な説明を要求された場合には回答者が没頭している状態、または、著しく気の散る環境にいる状態といったものでなく、通常環境で集中している時にどれだけ困難があるかについて考えるように促す。必要であれば、回答者が、例えば仕事、読書、書き物、絵描、楽器の演奏、装置の組み立てなど何かしている時の集中力について考えるように</p>

	促す。
S7	1 キロメートル相当[またはこれ相当]の長距離を歩く 必要な場合、距離を測定単位を変換すること。
S8	全身を洗う この質問は、回答者のいる文化の入浴の様式はどのようなものであれ、全身を洗うことについて質問している。 回答者が、過去 30 日間、体を洗っていないという場合、(WHODAS 2.0 に定義する通り) これは健康状態によるものかどうか尋ねること。回答者が、健康状態によるものとした場合、評価を「極度またはできない」を表す「5」にする。回答者が、身体を洗わないのは健康状態によるものではないとした場合、「該当なし」の項目「N/A」を付ける。
S9	自分で服を着る この質問は上下など全ての着衣に関して尋ねる。評価する際は、回答者が服をおいている場所(即ちクローゼットやドレッサー)から衣服を取り、ボタンを留め、ひもを結ぶなどの動作についても考えてもらうこと。
S10	知らない人とのやりとり この項目では、以下に挙げる人と対話することについて取り扱う。 ・小売店の店員 ・サービススタッフ ・道を聞くときの通行人 評価の際、回答者には目的を達成するための個々人へアプローチすること、その人たちと巧く対話することについて考えてもらうよう促す。
S11	友人関係を維持する この項目は以下の内容を含む。 ・連絡を取り合う。 ・普段通りの方法で友人と対話をする。 ・友人達と活動を始める。 ・誘われた活動に参加する。 回答者が過去 30 日間で友好関係を維持するような行動をしていない場合もある。この場合、(WHODAS 2.0 に定義する通り) 行動をしていないのは健康状態が原因かどうか尋ねること。回答者が健康状態が原因と答えた場合、「極度またはできない」の「5」と評価すること。反対に健康によるものではないと報告する場合、「N/A」と評価する。コーディングする。
S12	日々、仕事/学校で活動を行う ここでの全般的な質問の意図は、日々の仕事、及び学校生活を送る上で回答者が遭遇した困難についての評価を聞きだすことにある。よってここで聞き出す問題

は、仕事場やその他の関係する活動を行う上で時間通りに出勤／登校できているか、指示の受け答えはどうか、他の人々の管理はできているか、立案と組織はできているか、期待に応えることができるかということを含む。

p.63

WHODAS 2.0 の使用のためのガイドラインと練習

この章は、WHODAS 2.0 を使用する人々に向けたものである。読者はまず第 5 章（セクション 5.3）を読むこと。第 5 章ではアンケートからデータを収集する上での標準化の重要性、及びプライバシーの重要性が説明されている。また、第 5 章では、質問に答えるための基準となる枠組みについての情報も提供されている。

目的

第 5 章（セクション 5.3）の質問に答えるための基準となる枠組みに関するサブセクションを読むと、以下のことができるようになる。

- ・回答者が WHODAS 2.0 の質問に答える際、回答者が考慮に入れておくべき 6 つの要点を述べることができる。
- ・「極度またはできない」と「該当しない」の違いを区別できる

9.1 面接者記入バージョンの説明

このセクションは面接者記入バージョンのみを扱い、面接者記入の代理人バージョンも含む面接者記入バージョン特有の情報を提供する。

目的

一般的な面接の指示が書かれているこのセクションを読むと、以下のことが出来るようになる。

- ・優れた面接方法の主要な特徴を判別することができる。
- ・面接の導入時に見直すべき主要な要点をリストアップできる。
- ・面接中に回答者にフィードバックを与える 2 つの理由を述べるすることができる。

WHODAS 2.0 を使用するための準備をする際、面接に関する一般的な要点を見直すことは有効といえる。

次の点に留意すること。

- ・真摯に快く自信を持って面接行うこと。神経質になると回答者に不安を与えてしまう。
- ・面接の雰囲気を作るため、ゆっくりとはつきり話すこと。

- ・調査に関心がある様子を示すこと。
- ・回答者によって、回答者が要求する調査についての情報が多様化するということを認識し、それに従って導入の方法を調整すること。

以下で要点の幾つかを説明する。

優れた導入を行う。

面接には優れた導入を行うことが必須である。優れた面接を行うことで、面接の目標を伝え、対話の雰囲気を作る。導入時は、必ず以下のことを明確に伝える。

- ・あなたの名前と所属
- ・あなたが専門の面接者、または臨床医であるということ。
- ・あなたが正当かつ信頼できる組織を代表しているということ。
- ・アンケートは重要で価値のある調査のための情報収集であるということ。
- ・調査を成功させるためには回答者の参加が極めて重要であるということ。
- ・(アンケートの) 回答は法律、または現地特有の規制に定められている程度まで秘密が守られるということ。

p.64

必要に応じたフィードバックの提供

フィードバックを与えるには、面接中の回答者の態度に対して中立的表現を用いること。フィードバックは面接の主導権を握っていくための効果的ツールでといえる。フィードバックを用いることでできることを以下に挙げる。

- ・回答者が集中し耳を傾けるための注意を促すことができる。
- ・回答者の気が散り、余談をし、また不適切な質問をしたりすることを防ぐ。

回答者が不適切な質問（例、アドバイス、情報、面接者の個人的経験談を尋ねる）をする場合、以下に挙げる返答を行うこと。

- ・「本面接では、あなたの体験談を聞くことにとっても関心があるのです」
- ・「面接が終わったら、それについて話しましょう」
- ・「後でそれについて触れます」

回答者の回答が長い、もしくは必要以上に情報を提供するなどして質問から脱線した場合、以下に挙げる返答を行うこと。

- ・「他にも尋ねたい質問がたくさんあるので、次の質問にとりあえず移りましょう」
- ・「もしもっとそれについて話したいのであれば、面接終了時に話しましょう」

上記の 2 つの文は共に使うととても効果的である。また、沈黙を設けることも不適切な回答や会話を防ぐのに有効的だといえる。

9.2 印刷上の決まり

目的

この章の印刷場の決まりを把握するれば、以下のことができるようになる。

- ・ WHODAS 2.0 で全体を通して記載されている面接者への指示を理解し、適切に使用することができる。
- ・ 様々な活字のフォント（青字、太字、イタリック、下線）、括弧（角括弧）の意味を理解することができる。

面接者記入のバージョンは、下記に挙げる印刷上のきまりに沿っている。よって、このセクションを読む際は WHODAS2.0 を参考にし、決まりに精通すること。

1 面接者への指示

青い標準活字体で書かれたものは、回答者に向かって読むことを意味する。太字とイタリック体で書かれたものは面接者への指示で、声に出して（回答者に）読み上げないこと。

例：

B2 過去 30 日間の身体上の健康をどのように評価しますか？

(回答者に対して回答尺度を読むこと)

この場合、面接者は回答尺度を声を出して読む。

p.65

2 質問間のスキップ

「スキップの指示」は太字とイタリック体で記載されている。コンピュータバージョンでは、スキップが自動的に行われるようプログラムされている。

例：

D5.7 の前

ボックスにチェックが入る場合は続け、そうでない場合は次ページの領域 6 にスキップして下さい。2 Skips within questions

3 下線のある活字

質問中で下線を引いてある箇所は、回答者に読むとき強調すべき重要な言葉、または表現である。

4 文字通りの入力する箇所

空白行は、面接者が回答者の答えをそのまま記録する時に設けられている。

回答は述べられたとおりに正確に記録される必要がある。

こうした回答は、さらなる詳細を要する時に聞かれる。

例：

A5 現在のお仕事に最も当てはまるものはどちらですか

(もっとも当てはまるものを一つ選ぶ)

選択肢 9 その他 (詳細記入) _____

5 括弧

括弧内は要点を説明するための例が書かれている。

括弧内もすべて回答者に向かって読むこと。

例：

S4 他の人と同じ方法で地域の活動に参加するのに、どれだけ問題がありましたか (例えば、祝祭行事、宗教等)

この場合、面接者は括弧内のテキストを声を出して読むこと。

6 角括弧

角括弧内の指示は翻訳者に向けたものである。面接者が英語話者であっても、質問を明白にする、または回答者の文化の適用させる必要がある場合は角括弧内の指示に従うこと。

例：

D2.5 1キロメートル位[またはこれ相当]の長距離を歩く

p.66

9.3 フラッシュカードの使用 #1, #2

目的

フラッシュカードに関係するこのセクションを読めば、次のことができるようになる。

- ・2枚の WHODAS 2.0 のフラッシュカードを理解し、適切に使用する。

WHODAS 2.0 の面接バージョンでは2枚のフラッシュカードを使用する。フラッシュカードの使用目的は、回答者が回答中に重要事項を覚えておくための視覚的きっかけ、もしくはリマインダーである。このセクションを読むにあたってフラッシュカードを見直しておくこと。

フラッシュカード#1 は、面接で使用する最初のカードである。このカードには「健康状態」と「困難」についての定義がのっており、さらに回答者に対し質問の時間枠が過去30日以内であるというリマインダーの役割を果たしている。このカードに掲載されている情報は、

面接の間、回答者にとっての有効なリマインダーとなる。

フラッシュカード#2 は、面接で使用する 2 つ目のカードである。このカードには大抵の質問で使用することになる回答尺度がのっている。この尺度の紹介を行う際は、面接者は番号と対応する文言を声を出して読むこと。回答者は回答の際に答えを（この回答尺度を用いて）示すか、もしくは口頭で回答を言うかのどちらでも良いが、後者の方が望ましい。

- ・フラッシュカード#1 と#2 は、面接の間は回答者に見えるようにすること。
- ・WHODAS2.0 にある面接者に対する指示に従うこと。この指示は回答者がいつ各フラッシュカードに注意を向けるべきかが記されている。

9.4 質問をする

目的

WHODAS 2.0 の質問の仕方に関するこのセクションを読めば、次のことができるようになる。

- ・標準化された方法を用いて回答者に質問をすることができるようになる。

質問は全て現れた順番通りに読むこと。これにより回答者間で比較を行うことが可能となる。質問の言い回しや順番を少しでも変えてしまうと、回答に影響を及ぼしうる。

1 記載される通りに質問を読む

アンケートに記載される通り、質問を全て正確に回答者に対し読むこと。しかしこれには 2 つだけ例外が存在する。この 2 つとは、文法的に変更する場合と回答を検証する場合であり、以下で説明をしていく。

文法的変更

必要な場合、質問の言い回しを文法的に正しくするために変更すること。主に、ある領域で困難が 1 つしかないとわかった場合に生じる。

例：

- ・「これらの困難によりどれだけあなたの生活が妨げられましたか」という質問に対し、回答者がその領域で 1 つしか困難を示さなかった場合、複数の「これらの困難」という言葉を単数の「この困難さ」に変えること。

p.67

回答の検証

必要であれば、評価尺度で使用されている文言をより意味の通る形にかえること。

例：

・「あなたの身の回りに生じた障害、妨げによって、どれだけ苦労しましたか」という質問に対する答えとして、「なし」は、厳密に文法的にいうと不自然である。

この場合の「なし」を正しく言えば、「全くない」だろう。回答者のほとんどがこれを難なく頭で解釈できるが、必要であれば面接者は説明を行うこと。

2 質問を全て読む

回答者の回答を聞く前に、回答者が質問を最後まで聞いているかを確認し、回答者が質問の意味するところを把握しているようにすること。回答者が質問を最後まで読み上げる前に遮ってしまった場合、質問を再び読み、必ず読み終わるまで聞かせること。早とちりした回答を質問の答えとしてはいけない。

3 導入表現の使用

「...にどれくらい困難がありましたか」という表現が面接で頻繁に用いられる。必要な場合は、この表現をなるべく頻繁に繰り返し、回答者が面接を終えるまでの質問の流れをスムーズにすること。

4 指示された場合のフラッシュカードの使用

たいていの質問は、回答者に重要な情報をリマインドするためにフラッシュカードを用いる。(フラッシュカード#1 と#2 を示す) という指示があるところで、フラッシュカードを示す。

回答者の答えに対し憶測しないこと。しばしば面接者は面接の始めの段階で回答者のライフスタイルや健康状態に対し否定的な意識を確立してしまい、それが回答者の回答にも反映してしまう。これにより質問をとぼしたり、質問の導入部分で「この質問はおそらくあなたに当てはまらないと思いますが、...」と言いたくなると思うが、このようなやり方では、正確な情報を得ることはできない。また、前の質問に対する答えにより、後の質問の答えをどこまで予測できるかということが分からなくなってしまう。こういった憶測を避け、上記のようなコメントを差し挟むことで生まれる否定的な答えに対する偏見を持たないようにすること。

9.5 不明確な回答の明確化

目的

不明確な回答の明確化に関係するこのセクションを読めば、次のことができるようになる

- ・明確化と確認の標準的手法を用いることができる。

(質問の) 明確化が必要な時は、回答者が質問をしっかりと理解せず回答できないといった場合である。

回答の確認が必要な時は、回答者が質問を一見理解しているように見えるが、回答が質問の意図とずれている場合に行う。この場合、指示的な質問を行うのではなく質問を繰り返すこと。

1 明確化と確認のルール

(a) 回答者が質問を最後まで聞いたかどうか不確かな場合、質問を繰り返すこと。例えば、回答者が見当違いの回答をした、もしくは質問を全体的に把握していない場合、質問全体または回答者が理解できなかった部分を再読すること。

(b) 回答者が質問の特定箇所のみ尋ねた場合、その部分のみを繰り返すこと。

p.68

(c) 回答者が回答の選択肢のうち1つを繰り返すように求めた場合でも、すべての選択肢をもう一度読み上げること。回答者がはっきりとある選択肢を除外した場合のみに限り、その選択肢をもう一度読み上げなくて良い。

(d) 回答者に聞いた質問に偏見を持たせないためにも、質問を行う際は質問文をそのまま読み上げる、もしくは中立的な表現を行い回答者に理解の確認を行う。

(e) 質問を繰り返す場合、繰り返しを流れよく行うためにも中立的な導入を使用することが役に立つ場合もある。例を挙げると以下のような表現を用いて質問の繰り返しを行う。

- ・全体的には....

- ・質問を繰り返します....

- ・ええ、一般的には....

- ・一般的に言えば....

(f) 回答者が尋ねられることについて説明を求めた場合、まず単に質問を繰り返す。それでも回答者が分からない場合、第7章に述べる質問毎の詳細に書かれている通りの説明をすること。異なる項目に関する定義や説明を行ってはならない。

(g) 回答者が質問毎の詳細に記載されていないような、項目に関する定義、または説明を求めてきた場合、回答者に質問で使われている言葉、表現、概念に対し回答者独自の定義、または解釈を用いて回答させるように指示すること。この場合には、以下の表現を用いること。

- ・あなたの...という解釈で良いです。

- ・あなたの...に対する考えで良いです。

2 確認の種類

面接の一環として、回答者に説明を行うため、または回答を1つに絞るために確認を行う際は中立的表現を用いること。評価尺度を用いる質問は、1つのみの回答を丸で囲むこと。適切な中立的確認方法を以下に挙げる。

- ・それはどういう意味なのか言って頂けますか。
- ・それについて詳しく教えていただけますか。
- ・どう思いますか。
- ・軽度または中程度のどちらに近いですか。
- ・他に考えられることはありませんか。
- ・一番適しているのは何だと思いますか。
- ・具体的には。
- ・最も適している推測を教えてください。
- ・全体的に評価をして頂けますか。

3 よくある確認状況

以下に、WHODAS 2.0 を用いる中でよくある確認を必要とする状況を挙げる。

分からない

回答者が「分からない」と答える場合の原則としては、質問を繰り返す。それでうまくいかない場合、「分からない」(DK)として回答をチェックする前に回答者に一度確認を行うこと。もう一度考えてもらうためにも「最も適している推測を教えてください」といった確認を行い、再考を促すこと。それでも回答者が回答できないのであれば、「DK」を左欄外に記録する。WHODAS2.0のコンピュータバージョンは、DKの選択肢がある。

p.69

該当なし

質問が回答者の状況に当てはまらないと感じる場合もある。つまり、質問内容がこれまでに無かった場合(D4.5の性的行為に関する質問など)である。この場合、左欄外にN/A(該当なし)を記録する。コンピュータバージョンではN/Aという選択肢に記録すること。

「該当しない」と回答した場合は必ず確認を行う。確認を行う過程で、回答者が質問された活動を回答者が行えないので該当しないと選んだということが分かった場合、その項目を「できない」の「5」として採点すること。この状況では、下記の確認方法が望ましい。

- ・この質問が該当しないと選んだ理由はなんですか

(この質問で) 回答者が述べる理由が、回答者の文化圏で質問した活動が行われていない、もしくは過去 30 日間でその活動をしていないといった場合もある。

食い違い

回答の間での食い違いを検討すること。もし回答者がフラッシュカードに記載される情報を忘れていたような場合、必要に応じてなるべくリマインドすること。例えば、回答者が質問には明確に答えているものの、健康状態以外の理由で困難を示している場合である。フラッシュカードの情報をリマインダーとして用いることが役に立つ。しかし、認識された食い違いを解決するために、対立が生じたり、際限なく確認を行ったりしてしまうことは避けること。

9.6 データの記録

目的

データの記録に関するこのセクションを読めば、次のことができるようになる。

- ・ WHODAS 2.0 の面接フォームを適切に完了できる。

データを記録するときは、赤インク、もしくは赤字の鉛筆を使わないこと。自由形式の回答は、全て活字ではっきりと書くこと。

クローズドクエスション

全ての答えを与えられたスペースに書く、もしくはタイプする。

丸を付ける答え

たいていの質問は答えに丸をつける形式となっている。よって、回答が 1 つのみ選ばれていることを確認すること。コンピュータ形式では回答が 1 つしか選ぶことができない。

面接者による訂正

回答者の気が変わった、もしくは面接者が単に間違えて誤った回答をしてしまうこともある。この場合、不正確な回答に斜線(/)を引き、正しい答えに丸を付ける、もしくは、上の部分に正しい解答を書き込むこと。WHODAS2.0 のコンピュータバージョンはこうした回答の訂正をを容易にできる。

コードの記入

数字を記入する必要がある回答形式もある。この場合、回答は「右揃え」で記入すること。

例：

A3 これまで、学業には何年間時間を費やしましたか。専門学校、大学、大学院での時間も含めて答えて下さい

回答が「9年」であれば、「09年」と書く。

p.70

余白の注記

クローズドクエスションに対する条件付きの回答

条件付きの回答とは、与えられた選択肢から回答が選ばれてはいるものの「…であれば」「…を除いて」「しかし」といった条件付き文のあるものをいう。こうした回答は普段どおり記録を行い、条件文を回答フォームの左の余白に記入すること。というのもこの条件文のようなコメントには研究者にとって重要な情報が含まれている可能性があるのである。

回答を続け質問の途中にあるスキップ指示にも従っていくと、時に回答者は自らの回答に対し条件ではなく単に説明を付け加えることがある。こうした説明にはしばしば、「なぜなら…」「…という時は」という文言や、回答を同義語で説明するといったような兆候が見られる。こうしたコメントを回答フォームの空欄にメモしてはいけない。

回答者の答えの不確実性

回答者の答えが不確かな場合、質問を繰り返し正確に回答を記録すること。(即ち、不確かな場合でも回答を言い換えてはいけない) 回答自体は明確だが、どの選択肢を選ぶかが不確かといった場合は左の余白に十分な情報を記入し、調査主任や研究者へ決断を委ねること。または調査主任や研究者に不確実性を示すため左の余白に疑問符(?)を入れること。

データの欠落

質問忘れ

面接中に間違えて質問をし忘れた場合、フォームの左の余白に「忘れ」と記入すること。これは(質問の)取りまとめを行うものに質問をし忘れたということを示す。

もし面接中に質問のし忘れに気付いた場合、戻って質問を行い質問が順序を外れて行われたことを余白にメモすること。

もし面接後に質問のし忘れが分かった場合、回答者に再度連絡する、もしくは欠落データとして認める。ちなみにコンピュータバージョンでは、質問に答えない限り先へは進めない。

回答拒否

回答が拒否された場合、必ず左の余白、もしくは回答スペースに「拒絶(RF)」と書き込み記

録すること。WHODAS2.0のコンピュータバージョンを使用している場合、回答拒否を「分からない」として記録する。コンピュータバージョンの自由回答形式の質問に対し回答拒否がなされた場合、回答スペースに「回答者が回答拒否」とタイプする。

スキップされる質問

スキップのルールにより質問がスキップされた場合、空白のままにしておく。コンピュータバージョンで組み込まれたスキップ（ボタン）は質問を自動的に次へと進める。

面接後の編集

面接を行っている際、時に対話の流れを遮らないためにデータの記録に随時従事していることができないかもしれないが、面接後に必要な際は記録したデータの編集を行い、研究者にとって有意義、明確かつ判読可能な方法で記録を残すこと。データの編集方法は以下に挙げる。

- ・各面接の終了直後（次の面接開始前）に、全ての回答が完成し、読みやすく回答されていることを徹底的に確認する。可能であれば、回答者がそばに居るうちに確認を行いその場で訂正などできるようにする。

p.71

- ・編集後、面接中に無意識にスキップしてしまった質問の左の余白に「忘れ」と記録する。
- ・完成した面接内容を少なくとも1週間以内に調査の監督者に速やかに提出すること。これにより、更なる調査を行う前に修正点を発見し手順を訂正することができる。

9.7 問題および解決策

WHODAS 2.0を使用する際に発見したよくある問題とその解決策のリストを以下にまとめる。

問題

どのような時に「該当なし」を使い、どのような時に「できない」を使うのかがわかりません。

解決策

WHODAS 2.0が求めているのは、回答者が実際に行う活動で遭遇する困難の量を判定することである。よって、回答者が行いたい、もしくは行うことができるが行わないといった活動ではない。回答者が健康状態が原因で活動できない場合、その項目を「極度またはできない」の「5」と評価する。

回答者が過去30日以内に、ある活動していなくそれが健康状態によるものでない場合には

その項目を「該当なし」である「N/A」と評価する。

問題

回答者の現在の機能についての面接者（または他の人）の理解と、回答者の回答が一致しない。

解決策

WHODAS 2.0 は回答者の主観で得た回答、もしくは（代理人バージョンの場合は、）代理人から得た本来の回答者について回答を測定する。面接者が常に回答者の答えに同意できるというわけではないが、得られた回答をそのまま記録しなければならない。これはもどかしい場合もあるかもしれないが、研究者は WHODAS2.0 を用いる上でこの基準に従い、一貫性を保つこと。

問題

回答者の回答が明瞭でなく記録できない。

解決策

回答者が明瞭な回答を言わない場合、更なる明瞭化をはかるため回答者に確認作業を行う。

問題

回答者が繰り返し質問することにより嫌悪感を示す。

p.72

解決策

WHODAS 2.0 では、似かよった質問をしていることもある。一部の事例では、回答者がこれに対し嫌悪感を示したり、（回答者の）前の答えを面接者が聞いていなかったのではないかと思うこともある。この場合、面接者には2つの選択肢がある。

- ・前口上を述べてから同じ質問をする - つまり、以前の回答を聞いた上でもう一度質問するという前口上付きで質問をする。
- 「前に...と仰いましたが、紙面上に書いてあるので、もう1度お伺いします。」
- ・回答の確認をする - つまり、回答者が前に述べた情報をもう1度確認するといった意味を込めて質問を繰り返す。
- 「前に...と仰いましたが、これは正しいですか」